

# ぎた～らすだより

## ■～2026年(令和8年)ご挨拶～

新春の候、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

昨年は格別のご厚情を賜り、心よりお礼申し上げます。本年も出来る限り製作の他にも、何かしらの企画やSNSでの話題作りを繰り広げていければと意欲を沸かせておりますゆえ、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

## ■～昨年を振り返り～

「Kurosawa Guitarras」に工房名が変わった昨年、いよいよ蓄積させてきた構想を少しずつ表現していきたいと、ギター製作においては装飾におけるInlay「象嵌」技法へのチャレンジや、若手ギタリストを応援する為にコンクールの学生部門における楽器の寄贈、そしてなによりもギター愛好家を増やすために開催したイベント「Guitar Dreamers of Tomorrow(GDT)」を開催したことは記憶に新しいです。

時は同じくして、古き友の助けを借りながら工房の公式ウェブサイトを立ち上げたりインスタグラムを始めたことは自分にとってプラスになり、より多くの方々へKurosawa Guitarrasの活動をお伝えできることとなりました。もちろん、音楽大賞(大阪ギターコンクール)のご関係者、楽器店、雑誌社、ギター教室、ギタリスト、製作家、飲食店そして音楽施設等といった多くの人々に助けていただいたこと、ここに改めてお礼申し上げます。

GDTでは「Dos」※①というギターを製作し「アコースティックギターとクラシックギターがお互いに支え合い、新しいことを共に発進していく」という願いを込め、まずは弦一本ずつから」というコンセプトにギタリスト達により、たぶん“世界で?”“宇宙で?”初演されたことも喜ばしい事柄の一つでした。

また、ギターのサイド・バックを「Cartón」(カートン:ボール紙)で製作した「Dinastia」※②モデルは世界中をみても数少ない実験の成果を体験することができました。



※①

「Dos」



※②

「Dinastia × Cartón」

## ■～今年の活動目標～

そろそろ、クラシックギターの話題作りを土台として定着させるノウハウを身に着けられそうな気もしてきました。とは言え、かなりの能力を使うために限られた時間から見出せるものは微々たる事柄ばかりで、難しいことも実感しております。イベントにおきましては、周囲に予想以上の束縛と負担をかけてしまうので、手前どものイベントに関しては実験的に個人で動いてみることにいたします。

製作家ができる活動とは何なのか? 今年も「Kurosawa Guitarras」の活動を応援いただければ幸いです。

本年も何卒宜しくお願ひ申し上げます。